

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第 133 号

2011年 1月 1日発行

発行責任者：横井 正人

編集：機関紙局

特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座

北海道函館市陣川町 122-172

TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9

年 2 回発行

E-mail: kobusiza@wing.ocn.ne.jp

http://www18.ocn.ne.jp/~kobusiza/

主な内容

- (1) 新年のごあいさつ
- (2) 寄稿「地域と劇場文化」
- (3) 一般公演の様子
- (4) 地元での活動より

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い致します

二〇一一年 元旦

特定非営利活動法人 (NPO 法人)

民族歌舞団こぶし座社員一同



(金城公雄・絵)

理事長 横井正人 (座員)

理事 中尾雄児 (座員)

理事 計良 徹 (座員)

監事 金城公雄

計良正子 (座員)

横井ひとみ (座員)

松岡智恵美 (座員)

田畑悟志 (座員)

村田さつき (座員)

橋本かおり (職員)

岩島 司

岡部幸人

梶原康男

國田修司

西東英範

志賀松 晋

志賀松智恵美

古川喜美子

三浦恒雄

三浦芙美子

新年のごあいさつ

理事長 横井正人

新年あけましておめでとうございます。

皆さんから賜りましたご支援に心からお礼申しあげます。

昨年は、韓国民族芸術団クンドゥル(函館音鑑例会)を迎えての熱き国際交流に始まり、汗だくの「こぶし Theまつり」

熱気溢れる苫小牧市公演の大成功で締めくくられた暑い熱い一年、沢山の出会いと感動をもたらした一年でもありました。

地元函館では、教育行政との共同の仕事「文化・芸術アウトリーチ事業」や「亀田老人大学」の講師などの新たな活動の場も広がりました。

また、4人の演技者で挑んだ秋からの一般公演では、『えびす舞』や『豊年こいこい』を入れるなど作品内容を新しくして、楽しい舞台づくりに努めました。

観客の皆さんの「幸せになりたい！元気に暮らしたい！」との願いが、私が演じる「えびすさん」に託され、めでたく鯛が釣り上がると、笑い声とともに会場中が喜びに包まれます。時代の閉塞感を打ち破るには、腹の底から湧き出る健康な笑いが必要なのだと思えました。

私たちの制作活動の足りない点を補い、公演の成功に向けて奔走してくださった主催者・実行委員会の仲間の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

さて今年も、正月二日の「樺二森屋」初売りイベントからスタートします。

昨年以上に忙しい年となりそうですが、小さな集団ならではの活動を模索しながら、卯年にちなみ軽快なネットワークで全道各地を跳ね回りたいと思います。

皆さんのいっそうのご支援を心よりお願い申し上げ、新年のごあいさつと致します。

寄稿

『地域と劇場文化』

二〇一一年、卯の年が始まった。新年の訪れは心はずむもの。新たな年への希望と決意で身が引き締まります。年神の霊魂は、元旦に再生し活力に満ちた息吹で人間の心身を復活させると言われています。良い年になるよう願うばかりです。

今、何か世の中は悲しい事が多すぎる。辛い事が起きすぎる。こんな時代だからこそ、文化、芸術が必要だと私は考えます。各地域の伝統芸能を継承し、創造し、普及活動をしているこぶし座の皆さんの生きるエネルギー、皆さんのあの演じている笑顔が今必要です。こぶし座のファンの安心感、”あッ、そうだよな、もうすこし頑張ってみようかな”と思わせてくれる舞台、心安らぐひと時になります。元氣もええます。先人達の知恵や工夫、道を考えさせてくれます。

地域と劇場文化の話に入らせてもらいますが、昭和40年代初めから全国に文化ホール、教育文化会館と称される施設が次々と建てられており、70年代に414館、'80年代

730館、'90年代には1076館と毎年100館近いコンクリートの建物が増え、信じていられない数です。今や全国に三千近い文化ホールがあり、運営状態にあり、管理しているのがとても重要な課題となります。目的、用途に合った適正な選択、フレキシブルな運営などにくい状況になっているのが、全国公立文化施設の現状です。

それでは、今地域に必要なことは何か。今地域に必要なことはアートプロデューサーです。人と人をつなげる人です。最近よく言われる「であうー鑑賞交流ー」「つくるー育成支援ー」この事を市民の人々と話し合い、この町は今何が必要なのか、何の為に、誰の為に、と言う事を考え創造し実行していくマンパワーが必要で、積極的な表現活動を通じて創造する喜びとコミュニケーション能力を高めていく、特に次世代を担う子ども達に、自分の物語を作れる子どもを育成する、それをサポート出来る大人が分担し造り上げる空間、広場、それが地域の劇場です。

東京のある劇場の館長が言っていました。文化は五つの

「一つです...と。一つは「つむぐ」「つどう」「つくる」「つづける」。その通りだと思えます。長いスパンで、文化に急ぐことありません。ゆつくりと確実に一歩一歩、楽しんでいきたいと思えます。ありがとうございました。こぶし座の活躍をますます期待致します。

【略歴】
1945年 横浜生まれ。
'63年 東京厚生年金会館ホールに舞台照明担当として入社。
'71年 北海道厚生年金会館に転任。舞台監督としてあらゆるステージシーンに参加し多くの企画・演出を手掛ける。
'94年 劇場コンサルタント「侑時円プランニング」を設立。
'94年度 札幌市市民文化奨励賞受賞。
'98年（財）北海道文化財団トータルコーディネーター就任。
'06年 砂川市地域交流センターアートコーディネーター就任。
ほかに北海道立劇場検討委員会委員・斜里文化芸術アドバイザーなど。

念願だった演目「豊年こいこい」を、秋からの一般公演に載せることができました。岩手県花巻市東和町に伝承されている「立石百姓踊り」をもとに創作したもので、長い間お蔵入りしていたのですが、3年前に改めて現地取材を行い作品化しました。

東和町を訪ね現役のお百姓さんである保存会の会長さんからお話しを伺い、踊りの手ほどきを受けました。基本の足運びから、畦作りや田起こしの鋤の角度、苗の持ち方、稲刈り鎌の扱い、俵の重量感と足腰の入れ方など、ひとつひとつの農作業の動作を学びました。収穫の喜びに辿り着くまでの、土や水、太陽の光や風の音をも感じさせる指導に圧倒され、米作りへの深い愛情と誇りに満ちた笑顔に胸打たれる取材でした。

さて、公演活動の合間をぬっての仕込み稽古では、演技者の身体を通して何もない舞台空間から、田んぼの風景とお百姓さんの心根をどう伝えるのか、踊り込みながらの試行錯誤が続きました。

昔ながらの手作業で行う米作りの様子を通して、家族の絆・故郷への愛情・土に生きるお百姓さん達の心を届けたいと演じる私たちに、沢山のエネルギーが送られてきました。温かい手拍子や話し声に笑いが広がり、会場がほのぼのとした空気に包まれて行きます。お米に対する愛着の深さと民族芸能の持つ力が、舞台と客席の垣根を取り払い、一緒に物語を創っているような気持ちにさせてくれるのです。人間っていいなあ...と喜びを感じる瞬間です。

何千年もの長い間、毎年毎年繰り返されてきた米作りが、日本人の豊かな国土を育み、命を繋ぎ、心を育て、人と人を繋ぎ、人間らしい暮らしを生み出してきました。日本の原風景である田んぼは、殺伐とした時代を生きる私たちに、自然と共存して生きていることを教えてくれているようです。

工業利益の代償として矢面に立たされ、経済効率に合わないからと危機的な状況に追い込まれてきた農業。食糧自給率の低下を食い止め「農業」を守ることは、私たち国民の「命」を守ることではないでしょうか。

めでたい めでたい
稲穂が実って
黄金に輝く
百姓笑顔で
暮らせるような
そんな世の中
はよ来るように
みなさま一緒に
力を合わせ
世直し 世直し

失ってしまった大切なものを掘り起こし、断ち切られた関係をひとつひとつ繋ぎ合わせ、手を取り合って生きている勇気を生み出していきたいものです。

芸能にはそのエネルギーが込められているのですから...
計良正子

託す

『豊年こいこい』

昨年2月、砂川市地域交流センター「ゆう」でのアートプロジェクト「ゆ」のアーティスト事業でお世話になり、7月にも岩見沢市のクビドフェア・夏祭りに呼んで下さるなど、座活動を支えて下さっている頼もしい専門家です。

「豊年こいこい」の一場面



「豊年こいこい」の一場面

この秋から、4人体制での新しい演目による一般公演をスタートさせました。

どの会場も笑いや手拍子の絶えない楽しい雰囲気、今年も沢山の勇氣とエネルギーを頂きました。年内の開催地(十一市町村13カ所)の中から、一番小さな会場で実施した室蘭市の様子をお伝えします。

「アットホームな
雰囲気」で一体と
なった室蘭公演

実行委員会事務局長
吉田 義彦

「いや、よかったよ」といって、カンパ箱にサツとお金を入れてくださる方。「後援会に入ります」と帰りがけ受付で後援会費を納めていく方。この反響の良さに、実行委員自体が目を見くまし

た。12月17日(土)、室蘭市民会館2階会議室で室蘭公演が行われました。室蘭公演は5年ぶり。前回は、大ホールを借りて大きな公演に取り組みました。しかし、人数の少ない、こぶし座のよさをじっくり見てもらうには、「小さな空間で、演じ手が届くような距離で堪能する」というやり方でいこう、と決めました。

実行委員会を組織したのは9月。5年前の懐かしい実行委員メンバーだけでなく、新たな助っ人が6名も加わりました。アマチュアの落語家や

講師、アト好きの学童保育士さんなど多種多彩。「人が集まり元気なことをするのが好き」という仲間達です。このメンバーに支えられながら、券を広げました。

新メンバーから、「こぶし座を観たことがないから、どう宣伝していいかわからない。こぶし座の魅力は何ですか」という声。これは、「なぜ今、〈こぶし座公演〉をやめるのか」という私への問いでもあります。動き続けながら、この問いを考え続けました。その答えは、ようやく当日配布のパンフレットに書きました。「〈こぶし座〉の民舞は、いまよりずっと貧しかった時代の日本に生きた先人がつくり、伝えてきたものばかりです。どんな時代でも、人々は支え合い、励ましあい、日々の大変さを〈笑い〉と〈朗らかさ〉にかえて生きてきました。今日、ここに集うみなさんも、こぶし座の舞台から先人達の元気をもらい、周りのみなさんに〈笑顔の種〉をまいていただけたら幸いです。

「こぶし座」のみなさんに、感謝いたします。そして、また室蘭の地で会



時とひと楽しいを問わず男女若老

す。(ちよつと、偉そうな文章です。でも、私のこの思いは間違いなかったようです。観に来られたみなさんからいただいたアンケート(回収率68%)に、次のような言葉が綴られていました。「普段の生活で埋もれかけている〈心〉をよびさまされる思いがした。」「昔を思い出しながら見せていただきました。大変良かったです。」「自分は見たことがないのですが、日本の原風景ともいうような、なつかしさがありました。」「なんだか久しぶりにほっとするような時間を過ごすことができました。あたたかい気持ちになりました。」などなど。

こうやって心と心をつなぐ仕事をできたことが、何よりうれしいことです。「こぶし座」のみなさんに、感謝いたします。そして、また室蘭の地で会

います。

『こぶし座のみなさま』

：公演後に届いた、日高町からの嬉しい
お便りを紹介します。

このたびは3日間にも渡り、日高町日高地区での慰問・公演を開催してくださりありがとうございます。まだまだ、平取町での公演の最中ですね。函館までさらに運転をされお疲れのことかと思

います。来場いただいた方には、こぶし座のよさを十分堪能していただけたのかなと思いますが、私の力不足で、児童生徒教師の参加が非常に少なく、さらに声かけの必要性を実感いたしました。以下、長文となってしまいました。お許しください。

先ほど、40周年記念「北に生きる心むすんで」を斜め読みさせていただきました。あとでじっくり読みたいと思いますが、民衆の暮らし、平和や人権問題にまでかわり、それをもとに創作劇をつくられたことを恥ずかしながら初めて知りました。

先日、自宅を整理していたら、16年前に書いた専門誌が出てきました。職員になって一年目の私が書いた拙い文章が掲載されています。なぜ北海道で、山村で、働くようになったのかという経過が書かれていますので、送付いたします。

まず理想に燃えていた私ですが、根本の考えは変わっていないかと、ただ一点変わったのは、16年前は自分の力でこの町を変えたいとおこがましいことを言っていますが、そうじゃない、この町はこの町の住民が変える、その手助けを町職員がすべきなんだと今はそう思っています。

学生時代に地理学の先輩の実家がある置戸町豊住に遊びに行ったことがきっかけで、2ヶ月間の農業体験をさせていただきました。その後、置戸の社会教育へ傾倒していた私は、置戸町教育委員会(中央公民館)で社会教育実習をさせていただきました。そして公民館の実習とは別に、毎朝、酪農家牛舎掃除・置戸獅子舞保存会での活動をさせていただきました。この体験が私の人生を決定付けました。

平成6年、日高町の社会教育主事補採用面接を受け採用され、翌年、学生時代に出会い、国立日高青少年自然の家で看護師として勤務していた妻と結婚しました。彼女は社会教育主事の資格も持っています。ので、よき理解者であり同志でもあります。9年前、町長部局へ異動した時、落ち込む私を叱咤激励したのは妻であり、今「ひだからブック」の活動や文化協会の活動が出来るのも妻のおかげと感謝しています(なかなか面と向かっては言えないので活動が忙しいと、もめちやうのですが…)。

子どもが双子で双方とも障害児(男の子は軽度、女の子は重度)のため、育児と家事が非常に大変なのですが、特養でパートをしながら読み聞かせサークルを引っ張ってくれています。

今回、現代座にご相談したところ、こぶし座さんを紹介いただき非常に助かりました。また、こぶし座さんともご縁ができ、何事も人と人とのつながりがすべてだと実感した次第です。

乱筆乱文をお許しください。今後も貴座のますますのご発展を祈念しまして、御礼に変えさせていただきます。このたびは誠にありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

日高町文化協会日高支部
事務局長 高橋 健

地元での活動を意識的に行いたいと、毎年のように計画を立てているものの、どうしても道内各地を飛び回ることの多い近年ですが、昨年は、今までとは質の違った活動を実施することができました。今年も、新しい活動を展開し、要望に応えられる力量を高めていきたいと考えています。特徴的な二つの活動を紹介します。

こぶし座さんに
感謝を込めて
函館市文化・芸術
アウトリーチ事業
コーディネート
石丸典子

業がどんなにすばらしい機会となったことか！本当に、それはこぶし座さんのご好意がなければ不可能な事でした。今後益々こぶし座さんが発展しますようご祈念申し上げますと共に、次年度もどうぞよろしく願います、という気持ちでいっぱいです。



まずは、小太鼓実践！(恵山小)

学校現場からは、箏やフラダンスの体験学習、雅楽の鑑賞、リコーダーの指導など多様な要望があった中、「子供たちに和太鼓を体験させたい」という学校が6校もあり、そのうちの5校をこぶし座さんにお願しました。横井さんの一振り一度肝を抜かれ、張りのある声で歌い踊る松岡さんとの共演に目を輝かせて見入り、生き生きと太鼓を打つ子供たちの姿に、どの学校の校長・教頭始め先生方も大感激でした。未知の可能性を秘めた子供たちにとってその1コマの授

「函館市
亀田老人大学」
で講演

去る、8月17日、亀田老人大学の講師として「民族芸能と人々の絆」と題して、講義と公演を行いました。亀田老人大学は、昭和43年に高齢者のための生涯学習事



学生さんの中には、元漁師の方も…

業として創立され、今年で43年目を迎える歴史ある4年制の大学です。

函館市在住の60歳以上の方々が対象で、320名の学生さんが学びと交流を深めています。

老人大学で講師を務めるのは初めての計良は、お盆休みを返上して…こぶし座の仕事を通して出会った方々と民族芸能の関わりについて…をまとめ、緊張した面持ちで講義に望みました。

経験豊かな学生さんに支えられ、何とか講義を終了し、休憩へ…。

後半は実技公演に移り、ホッとした様子で司会を務め公演部の演技を披露しました。

道南の芸能を中心にした演目に、学生さん達の心もほぐれて手拍子が入り、楽しく鑑賞していただけようです。

【公演部】

『パセオンカムイ
カムイノミ』
に参加して

去る10月24日、アイヌ協会浦河支部主催、秋の収穫に感謝する「パセオンカムイカムイノミ」に参加しました。

苦小牧から列車に揺られ3時間、浦河駅には遠山さん(サキさんの息子さん)が出迎えてくださいました。

会場である堺町生活館では、中央に囲炉裏が置かれ、テーブルには沢山の供え物が並び民族衣装を身に付けた保存会や支部の会員の方々が、忙しそうに準備に追われていました。

初めて参加した私を温かく迎え、「早くこれを着て、こちらへいらつしやい」と民族衣装を手渡してくれる。挨拶もそこそこに急いで衣装を身に付け、みなさんの後ろに座らせていただきました。

始めに家を守る神に祈りを捧げ、屋外に設置した水や海、地域を守る神などに感謝の祈りを捧げ、先祖供養の「イチヤルパ」が行われました。神聖な空気が流れ、神との会話が始まります。

保存会会長の庄子さんが挨拶に立ち、城野口ユリさんがヤイサマ(即興歌)を披露。

高齢にも拘わらずお元気そうで、腹の底から絞り出すように歌われる一節一節に、深い悲しみと怒り・願いが込められていて、胸に迫ってきました。その後、参加者みんなで輪になり、リムセを踊り想いをひとつにしました。

一連の儀式が終わり、昔ながらのアイヌ料理を囲み会食が行われました。

30年以上も前にお世話になっていた城野口さんにお会いし、ヤイサマまで聞かせていただく事ができて、感激もひとしおでした。

帰りには、浦河町杵臼のアイヌ墓地に案内してくださいました。民族迫害の象徴でもある地に立ち、歴史の真実をしっかりと胸に刻みフシコウタル供養塔に手を合わせ浦河を後にしました。

お忙しいなか、快く受け入れてくださった保存会・支部のみなさんに心からお礼申し上げます。

【創演部・計良正子】



浦河支部の皆さん(堺町生活館)

【一〜三月の公演】

《一般公演》

2/11(金) 函館市亀田

12(土) 北斗市七重浜

13(日) 函館市桔梗

16(水) 岩見沢市幌向

17(木) 妹背牛町

19(土) 江差町水堀

20(日) 江差町

23(水) 本別町

25(金) 白糠町

26(土) 釧路町

27(日) 釧路市鳥取

3/1(火) 遠軽町

14(月) 札幌市厚別区

《保育園公演》

1/11(火) 桔梗保育園

12(水) つぐみ保育園

13(木) 神山保育園

14(金) 青い鳥保育園

16(日) 認定こども園

31(月) どんぐり

2/1(火) 北の星東札幌保

2(水) 北の星白石保

2(水) くまの子保育園

3(木) 菊水上町保育園

4(金) 風の子保育園

7(月) 八雲国の子保

3/9(水) せいせいかん保育園

座員・松岡智恵美

松岡勉さんが九月十三日逝去されました。生前のご厚情に感謝し、社員一同心からご冥福をお祈りいたします。